

副作用のないがん治療を！

～最先端の研究設備で薬の開発～

応用生命科学科


生物生命学部 教授 松本 陽子

がん治療を受けて副作用に苦しんでいる人を見たり、聞いたりしたことはありませんか？がん治療の難しさは、薬や手術が「がん細胞」だけではなく「正常な細胞」にも悪影響を与えてしまうことです。崇城大学で上岡教授が開発した「人工細胞膜」(ハイブリットリポソーム)は、リン脂質と石けん分子を超音波照射して作った“袋”です。中には薬剤は入っていません。それを、がん細胞まで静脈に注射をして送り込みます。驚くことにその“袋”が、がん細胞だけに効き目を発揮するのです。しかも、死滅したがん細胞の破片はマクロファージ(食細胞)がきれいに食べてくれることも判明。画期的な治療薬として日本中から注目を浴びています。現在、この「人工細胞膜」を使って“がん”だけではなく、エイズ・リュウマチ・アルツハイマーなど他の病気の治療薬開発に向けた研究にも取り組んでいます。副作用で苦しまない治療ができる事を夢にみて日々研究中です。



<http://www.sojo-u.ac.jp/>

そうじょう大学

検索 



●工学部 ●芸術学部 ●情報学部 ●生物生命学部 ●薬学部

熊本市西区池田4-22-1

問い合わせは入試課まで

TEL:096-326-6810(直通)